

News

慰霊祭

10月10日(火)、サイエンスラボラトリー (KULL) にて実験動物たちの慰霊祭が執り行われた。生き物の命をいただいて実験を行っていることを再び胸に刻み、黙とうをささげた。

応用生命化学実験 I

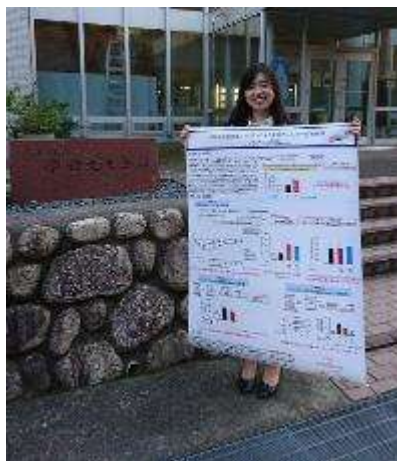
10月10日(火)、応用生命化学コース学部2回生の応用生命化学 I 第2部「生体成分の一般分析」が始まった。お米やお茶などの食品からインスタントラーメンのような加工品など計16種類を用いて分析を行う。生体成分の一般的な分析方法の習得を目的としており、食品における水分、タンパク質、脂肪、灰分の定量を、例年通り本研究室が担当する。この日は灰分の定量のため試料を燃やしており、所々で煙が上がっていた。



実験中の学生たち (B2)。和気藹々と実験を行っている。

iBioK

10月31日(火)、バイオプロダクション次世代農工連携拠点 (iBioK) 部門会でのリサーチエンジンの研究成果報告が行われた。ポスター発表者の森田温子 (B4) はこの日のために入念な準備を行ってきた。初めてのポスター発表に不安を隠せない様子であったが、来場者の質問にもはきはきと答えていた。本人にもなにか収穫があったようである。発表に向け遅くまで準備を行っていたようで、ゆっくり休んでほしいものである。発表お疲れさまでした。



ポスター発表終了後の晴れやかな笑顔の森田 (B4)。

森田 温子

コンブ由来多糖フコイダンによる新規アレルギー抑制機構

先行研究では F-フコイダンがこれまでの報告とは異なり、Th1/Th2 サイトカイン産生に影響を与えず、IgE との親和性が高いことで、アレルギー抑制効果を示すことが明らかとなった。このことにより、アレルギー感作後でも機能を発揮することが予測され、実際に OVA 感

作後に F-フコイダンを経口投与するとアレルギー抑制効果が見られた。

学会発表

平成 29 年度食の安全研究 5 大学共同開催フォーラム「食の安全研究ホットトピックス」

東北大学青葉山キャンパス(仙台市)

2017 年 9 月 23 日

食品中多糖類の腸管上皮細胞を介した炎症抑制機構○水野雅史
要旨集 pp.10-11

The 9th International Medicinal Mushroom Conference, Palermo, Italy, 24th-28th, September

○ Masashi Mizuno, Ken-ichiro Minato, and Takashi Hashimoto
Lentian exerts anti-inflammatory activity by suppression of transfer of tumor necrosis factor receptor 1 to surface on intestinal epithelial cell through Dectin-1 receptor
Abstract p.87.

The 9th International Medicinal Mushroom Conference, Palermo, Italy 24th-28th, September

○ Ken-ichiro Minato, Masashi Mizuno, Lisa C. Laan, Akihiro Ohara, and Irma van Die
Immunomodulating effects of the edible mushroom, /Pleurotus/ /citrinopileatus/, on innate immunocompetent cells such as dendritic cells and macrophage,
Abstract p.88

iBioK 部門会 リサーチエンジン研
究成果報告

神戸大学六甲台第二キャンパス

2017年10月31日(火)

○森田温子、水野雅史「コンブ由来多糖フコイダンによる新規アレルギー抑制機構」

編集後記

4月からここまで本当にあっという間でした。今年も後 2 か月もないと思うと時の流れが少し恐ろしいです。私より先にポスター発表デビューを果たした後輩に負けぬよう、来年4月の中間発表に向けて実験を頑張っていきたいです。

藤井 美風 (M1)